

Hôtel Informations

Le Mas de La Rose

ル・マス・ド・ラ・ローズ



プロヴァンスのリュベロン地方とアルピュ地方のちょうど境目にある村オルゴンにあるホテル。敷地内にはプールもあり、一日中のんびり過ごすことができる

住所：Route d'Eygallères 13660, Orgon

TEL：33 (0) 4 90 73 08 91 FAX：33 (0) 4 90 73 31 03
 全8室（スイート3室）一般客室料金：€135～289 スイート
 客室料金：€200～410 朝食料金：€18 ホテル休業日：1/5
 ～3/4 レストラン休業日：オクタンヌシの日曜日・月曜日、ハ
 イシーズンの日曜日 アクセス：マルセイユ空港より50km、ナ
 リー・リヨン駅からTGVでアヴィニョンTGV駅まで2時間40分、
 そこから25km

【例】シャトー・ド・ホテル・ド・フランス TEL：03-3598-1441



ホテルのオーナー、ファビエンヌさん。フランス北東部のナンシー地方出身だが、プロヴァンスに魅了され3年前のこのホテルをオープンした

右) 全部で8室ある客室のコーディネイトは全てマダムが担当。心が休まる淡い色で統一されている。左上) ホテルのアメニティはオリーブを使ったものをチョイス。左下) [C]E(静かに)と刺繍された可愛い小物が部屋のドアに掛けられている



Provence

Une Provence de rêve : le Lubéron

リュベロン地方を離れる日の朝も、
温かい太陽の光に包まれた。

翌朝目を覚まして溜屋の窓から外を見ると、快晴。真夏の青なブルーの空。向こうにあるオリーブの木々が、太陽の光に照らされていた。

朝食までほ少し時間があるので、敷地内を散歩しようと思ふ。エントランスを出てしばらく歩くと、オリーブのほろを振り返ると、太陽の光を受けた石づくりの壁が金色と輝いていた。思わずため息が出る。これが、マダムが魅せられたリュベロンの光景なのだ。

8日間かけて旅したプロヴァンス、リュベロン地方の町のあちこちで見た風景を言葉で、一気にフラッシュバックする。プロヴァンスに到着した日に「オーベルジュ・ランマニエール」で飲んだロゼワインの味、アパートのマルシェに並んでいた色とりどりの野菜や、黄金色のオリーブオイル、ゴールドで見た、夢のような中世の町並み……。

「プロヴァンスには、生きる喜びがたくさん詰まっている」。フランス中、いや世界中の人たちがプロヴァンスへ憧れるのは、こういう理由なのだ。昨晚マダムが言っていた言葉の意味が、今、



プロヴァンス最後の日は、
隠れ家ホテルで旅の疲れを癒す。

リュベロンの夕間にぼっかり浮かぶホテル「ル・ラ・ローズ」。目の前に広がるプールのライトアップがとても美しい



左) 仔牛の肉をローストしたものに、肉汁とタイムと一緒に煮込んだソースを添えて。トマトやズッキーニ、ナスの重ね焼きを付け合せに。中) ホタテをグリルしたものをメインに、トマトとオリーブオイル、パジリコを混ぜたソース、にんじんやズッキーニを添えて。右) シェフのローラン・ドテさん

「一年中暖かい太陽の光と、美味しい食材に恵まれて……。プロヴァンスには、生きる喜びがたくさん詰まっていると思うの。人が求める理想の暮らしが、ここにはある気がするよ。だからプロヴァンスを選んだの」。

この日のテーブルに並んだのは、新鮮なホタテや柔らかい仔牛の肉のロースト。マダム曰く、ここはレストランではなくて、大切な人をもてなすプロヴァンスの家庭の食卓だ。

「すぐに、夕食の準備をしますね。先にお部屋へどうぞ」。

そういつて案内してくれた客室は、ペーゼユと白で統一された、プロヴァンス風の可愛らしい部屋。建物は17世紀に建てられた農家を改装したものらしい。なぜプロヴァンスにホテルを? と、尋ねてみる。